

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1190600013		
法人名	株式会社メデカジャパン		
事業所名	庄和ケアセンターそよ風		
所在地	344-0117 埼玉県春日部市金崎675-2 TEL 048-718-3730		
自己評価作成日	平成23年2月15日	評価結果市町村受理日	平成23年7月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kohyo-saitama.net/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター		
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号		
訪問調査日	平成23年 4月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

〈そよ風憲章〉を毎日朝の申し送りで斉唱している。〈そよ風憲章〉はそよ風の介護の基本理念をまとめたもので、全職員はその理念を理解し実践できるように、日々努力しています。「共に生きる」というそよ風の理念を実現すべく、職員一同が、ご利用者様をまるで自分の両親・家族と同じであるように介護する事を心がけている。
ご利用者様を一人の自立した個人として、人生の先輩と見て、学べる場所は学ばせていただき、私達も成長できるような関係を築いている。
食事おやつが楽しみになるよう職員が心を込めて手作りしている。病院の受診については、送迎範囲を相談の上、職員が緊急的・定期的病院受診の付き添いを行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所内のチームワークが図られ、チームで個々をフォローし、皆んなで考えながら、利用者のケアに取り組まれている。また、家族との協力関係も築かれており、家族が参加して遠足が行われ、利用者・家族に大変喜ばれるなどの取り組みも見られる。管理者が講師となり、職員への研修を徹底させている。中でも利用者の尊厳とプライバシーについては「利用者との垣根があいまいにならないように」と原点に戻って、その大切さを確認し合っている。H21年度の目標達成計画(災害対策)について、近隣団地住民との合同消防訓練が行われ、消防署からも防災の講義を受けるなど、防災意識の普及にも努められている。(身体拘束をしないケアの実践)についても、ワークシート方式を教材に取り入れ、職員研修を行い、身近に起こる身体拘束の事例への理解を深めるなど、職員の意識改革につなげた研修が行われていることや、他の項目においても、目標達成に向けた積極的な取り組みが見られ、目標の達成がうかがえる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<そよ風憲章>を朝の申し送り時に斉唱し、「ともに生きる」という理念の実現に向けて、職員一同、日々取り組んでいる。	職員が日々行うサービスの質の向上に向けて、理念の定着が図られている。現在の「ともに生きる」という理念をベースに、当事業所として独自の理念の創成への取り組みが行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事には積極的に参加している。庄和マラソン大会応援、県営はなわ団地との合同防災避難訓練など交流に努めている。	地域とのつきあいへの取り組みは積極的に行われ、市で行われるマラソン大会へ食品提供支援や、事業所の納涼祭に近隣の子供を受け入れるなど、地域から周知されるよう取り組みがなされている。	事業所と地域とのつきあいを幅広くして、地域に貢献できるよう、現在検討されている中学生の職業体験の受け入れや幼稚園の園児との交流を図るなどの実現に向けた取り組みに期待したい。
3		○事業所の方を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「4周年祭」「納涼祭」など施設行事に地域住民の参加を集い、ありのままのご利用者様と触れ合っていたくことで、認知症の理解を深めていただく機会としている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開き、利用者様へのサービスの報告、内容などを話し合い、サービス向上に活かしている。クリスマス会などの行事と同時開催とすることで、ご家族様が参加しやすくなる工夫をしている。	事業所のイベントと組み合わせ、定期的開催され、家族が参加しやすいよう努められている。会議では、非常災害時の連絡網の整備についての意見をいただいたり、元利用者家族の介護体験談を聞くなど、幅広い取り組みがなされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所(高齢介護課、社会福祉課)や介護相談員と連絡を密にしている。市主催の研修会や勉強会には積極的に参加して、介護のレベルアップに努めている。	市担当者とは随時交流に努めており、スプリングラーの設置について情報提供を受けたり、生活保護の利用者へは、担当者が自ら来ていただき、説明するなどの連携が図られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修を行い、身体拘束の弊害を理解し、身体拘束ゼロを目指して、努力している。散歩や買い物の機会を増やして、外の空気に触れる機会を多く取っている。	身体拘束廃止について、職員研修にワークシート方式の教材を取り入れ、それにより身体拘束廃止に対する意識も高まり、身近に起こりうる事例を学ぶことで、拘束に頼らないケアの理解に努め、実践されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ワークシート方式の研修資料を取り寄せ、職員研修に生かしている。職員には虐待を見つけたら通報する義務があることを説明しており、虐待が見過ごされない施設作りをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度は勉強会実施済み。日常生活自立支援事業は未実施で今後勉強会開催予定。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時に契約書・重要事項説明書を十分時間を取りながら説明して、ご家族の納得を図っています。気軽に疑問を聞けるように、促している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情相談窓口を明記し、利用者家族等の苦情があれば、担当者が責任を持って対応する体制を整えている。	利用者や家族の意見を取り入れることへの事業所としての意識は高く、運営推進会議を通して、情報収集に努められている。家族へは、契約時、運営推進会議の意義、参加するメリットを説明し、参加いただくよう働きかけがなされている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議で運営の報告を行い、職員から意見を募る場としている。行事企画書を整備して、職員のアイデアを実現しやすい環境を整えたことで、利用者が楽しめる行事が盛んになった。	チームで取り組む姿勢のもとに、職員の意見提案に受け入れられる環境作りがなされ、常に皆んなで考え、情報を共有し、全員でフォローしあう体制が整えられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を活用し職員と一対一で面談する機会を設け、その職員の希望を踏まえての目標設定をして、スキルアップややりがいを持てるように支援している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人面談の時に、自分で目標を立てさせてそれを達成できるよう促している。資格習得を奨励・応援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣施設と各種行事・業務支援等で人的交流をはかり、自分のところのないものを学ぶなどサービスの質を向上させていく取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	「初めてで不安に思う事も沢山あるでしょう」と話し、「困っている事などあれば何でも相談してください」と勧めている。早く施設になれて、他の利用者と交流できるよう、職員が媒介となる支援を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時にご家族とゆっくり時間を掛けて話をして、困っている事などの相談できる関係作りをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	実地調査を行い、ご本人の状態把握に努め、グループホームに適した入居対象者であるかを十分に検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人が出来る事を積極的に行っていたくことで残存能力を維持して、自尊心を持った一人の個人として暮らしていけるよう、共に生活を支えています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人が出来る事を積極的に行っていたくことで残存能力を維持して、自尊心を持った一人の個人として暮らしていけるよう、共に生活を支えています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所のスーパーに買い物と一緒にいき、馴染みの場所の関係を途切れないように努めている。	週2回、買い物を楽しまれており、近隣の店とのなじみの関係を継続させている。また、材木店に長く努めていた利用者へ、その店の若社長が訪ねて来られて、思い出話に花を咲かせるなど、受け入れにも積極的に取り組まれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を見極め、職員が間に入り、利用者様同士が生活を共にし支えあう関係が作れるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去のご家族様にも運営推進会議の委員等に参加していただき、各種行事のお便りを差し上げて、関係が途切れないようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃から職員がご利用者様の思いや意向を聞いて、それを日々のケアに生かせるようカンファレンスで話し合っている。	日常的に利用者の思いに耳を傾けている。入居されてから、家族に喜んでもらうために習字を始め、生きがいを見つけられた利用者もおられ、利用者の意向や意思表示への支援体制が整えられている。	利用者の思いに応え、さらにサービスの質の向上を図るため、ケアへの新しい試みに対して、職員が不安がらずに、積極的に取り組まれることに期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	実調の際、担当ケアマネ、ご本人、ご家族に生活歴、なじみの暮らし、生活環境、経過などを尋ねて、本人の全体的把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の変化に注意して、気づいた事は職員間で共有する為にカンファレンスし、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族とご本人の現状にそくした介護計画の話し合いをして、ご家族の要望も取り入れたケアがなされるように計画している。	各ユニットのカンファレンスで、職員が一人ひとりの状態を話し合い、意見を統一し、また、家族の考えや、医師の助言も取り入れながら、チームによる介護計画の作成に努められている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者様の支援経過に日々の様子、ケアの実践を記録し情報の共有に努めて、良いケアのあり方は皆で手本とし、より良い介護が提供できるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族のニーズに対応をしてリハビリ、外食レク等新しいサービスを導入し、サービスの多機能化に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	アシスト春日部にボランティアを派遣してもらえるよう依頼し、行事等に協力していただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院の愛和病院、他医療機関と連携を図り受診の際には職員が付き添い、適切な医療を受けられるよう支援している。	入居時、利用者・家族と話し合っ、受診病院を確認し、事業所の協力医療機関だけでなく、かかりつけ医、専門医への受診にも、積極的な支援が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	受診に職員が同行して、日常の様子を伝える事で、受診先の病院看護職や栄養士と連携を図り、適切な治療が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期退院に向けて入院先の治療計画のカンファに参加したり、看護サマリー計画、介護記録の情報交換をするなど連携を深めている。ご利用様が入院した際職員が頻繁に、面会し安心して過ごせるよう心がけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族と相談を持ち、ご家族のつらい気持ちに共感しつつ、重度終末の方針を定め、それを病院関係者、職員で共有し、支援する体制を作っている。	利用者・家族の意向に沿えるよう、常に話し合いが行われている。現在、ターミナルケアへの取り組みも準備されており、「トータルケア」を目指し、心の面のケアも含めて、支援体制作りが検討されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急講習会に全職員が参加している。応急手当や初期対応の訓練は今後予定している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災避難訓練は年2回実施している。そのうちの1回は、地域から守られる施設とするために、近隣の団地住民と「合同防災避難訓練」を、消防署署員の指導の下に行った。	近隣住民と合同避難訓練を実施し、消防署より防災についての指導を受けるなど、積極的な取り組みがなされている。また、夜間を想定した訓練も行われ、近隣の協力者の役割分担についても検討されている。	災害発生は予測不可能なことから、職員だけの避難誘導には限界があると想定されることから、地元の協力者の確保や、具体的な役割分担を構築するなどの取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	カンファレンスを定期的に行い、利用者の個性の把握に勤め、自尊心を持って生活できるよう配慮した支援を行っている。	センター長が講師となり、「利用者と職員の垣根」があいまいにならないよう、常に原点に戻り、プライバシー保護、個人情報保護の大切さなどを確認し合うよう努められている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から「困った事があれば何でもいってくださいね」と声掛けして、要望を気軽に相談できる関係作りをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の大まかな流れは決まっているが、それを強制することなく、自分のペースを優先して生活できるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ひな祭りなど行事の時には化粧を楽しんでいるが、今後は日常的にお洒落が楽しめるように計画中である。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その方の能力に応じて、食事の準備や片付けを手伝っていただき、職員と一緒に会話を楽しみながら、食事をしていただいている。	利用者の残存能力を活かし、「介護しすぎない介護」を目指して、準備や後片づけには積極的に参加いただいている。また、利用者の好みや食事制限によるメニューの変更や追加にも対応し、食事を楽しんでいただく支援が行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量の記録をつけ、食事量・水分量の少ない方には個別の食事や、ゼリー・ヤクルトを提供して、補食している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者を洗面台に誘導し口腔ケアを行なっている。職員ができない部分については、訪問歯科に治療と口腔ケアをしていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方の状態に合わせて、リハビリパンツの使用や、定時トイレ誘導、ポータブルトイレ設置など、排泄の自立に向けて、支援している。	利用者個々の能力に合わせて、自立への取り組みがなされている。また、排泄への誘導、ケアについて、羞恥心にも配慮し、職員同士が協力し合って、同性介助を行うなどの支援も行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘がちな方には、水分を多めに取っていただいたり、運動してもらったり、自然な排便が行えるように取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間帯は15時から18時を予定しているが、それ以外でも希望があったり、介護が必要な場合は、自由に入浴していただけるよう対応している。	利用者のペースでゆっくり楽しんでいただくよう心がけ、身体状況に合わせて、入浴時間を変えたり、脱衣場所の温度やお湯の温度管理にも配慮がなされている。職員は過度に手を出さずに、見守りを基本に支援が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	以前使っていた寝具を持ち込んでいただき、プライバシーの守られた個室で安心して気持ちよく眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理表の作成、利用者別の薬の分包を行い、服薬支援している。今後は職員の薬に対する知識を深める勉強会を計画している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご希望のレクリエーションを取り入れたり、家事の手伝いをいただいたり、施設の中で自分の役割を感じられるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は散歩に出かけ、季節の花を見にドライブに出かけたり、買い物に同行したり、外出の機会を多くしている。	家族も参加して、協力を得ながら、遠足に出かけたこともあり、家族だけではできない外出支援ができたことで、利用者からも家族からも喜ばれている。また、利用者個々に合わせて、買い物外出なども積極的に取り入れられている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望者は買い物にスーパーに出かけ、自分の好きな物を買って楽しんでる支援をしている。お金の管理は、施設で預かりの方、個人管理の方がいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状など季節の便りや、希望があれば携帯電話の持込や、施設電話を使っていたりなど、家族との絆が感じられるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の飾りを利用者と共により作り、壁に飾る事で季節感を感じていただき、掃除に力を入れて、不快な臭いや汚れを除去して、心地よく生活できる環境を作っている。	利用者が居間にいっしょに集まって過ごせるよう、様々なアイデア、企画を考え、気持ちの良い環境作りに努められている。また、出来たての食事の匂いが香り、生活感を味わうことができるよう配慮がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	独りになりたいときは居室に戻ったり、おしゃべりしたい時はリビングに出たり、自由に過ごせる空間作りをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの物品を出来るだけ持ち込んでいただき、居室を今までの環境と似たものにする事で、心地よく暮らせるパーソナル空間を作っている。	写真、位牌など、利用者が居室に持ち込まれるものへの制限が設けず、自宅での生活環境と同じくすることで、利用者が安心して落ちついて生活できるよう配慮がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリー化しており、手すり、エレベータ、床段差の解消など、安全に自立した生活が送れるように設計されている。		

(別紙4(2))

目標達成計画

事業所名 庄和ケアセンターそよ風

作成日: 平成 23年 6月 27日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	23	利用者の思いに応え、さらにサービスの質の向上を図るため、ケアの新しい試みに対して、職員が不安がらずに、積極的に取り組まれることに期待したい。	今年度中に職員が最低でも一つの企画(計画、実行、評価)を実現することで、ご利用者様に喜んでいただく機会を増やす。	職員が企画を実現しやすくなるように、センター長が相談に乗り、予算(1件5000円以内)、シフトの組み換え(人員の手配、準備時間の確保)など協力する。失敗を恐れず取り組めるように、挑戦することをよしとし、責任は問われないものとする。	3ヶ月
2	35	災害発生は予測不可能なことから、職員だけでは避難誘導には限界があると想定されることから、地元の協力者の確保や、具体的な役割分担を構築するなどの取り組みに期待したい。	具体的な協力体制を構築するため、相互に利益のある協定書を作成する。	自分たちができること、相手にやってほしいこと、連絡を取り合う方法を明確にして、ことが起こった時に迷わずに動くことができるよう、書面として協定書を作る。	6ヶ月
3	2	事業所と地域のつきあいを幅広くして、地域に貢献できるよう、現在検討されている中学生の職業体験の受け入れや幼稚園の園児との交流を図るなどの実現に向けた取り組みに期待したい。	①職業体験の受け入れ準備 ②幼稚園との交流の機会を作る	①最寄りの中学校と連絡を取り、職業体験の受け入れを表明する。担当所で具体化のための話し合いを持つ。 ②最寄りの幼稚園と連絡を取り、相互に行き来できる関係づくりのため、担当者で詳細を話し合う。	12ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。